

くらしと環境をつなげて考える

「買い物ものがくらしや社会を変える。」の言葉どおり、私たちが何を選びとるかにより、それを生み出す産業や自然環境を次世代につなぐことができるかどうかが決まります。こうしたつながりの学びと体験を広げています。

1 エシカル消費

エシカルとは誰かの笑顔につながるお買い物。「自分のため」はもちろん、「自分以外のため」…そんな気持ちに支えられるエシカル消費。これまでも、これからもコープこうべは4つの視点をたいせつにします。

エシカルとは…「倫理的」という意味です。エシカルなお買い物とは地域や社会、環境や人々に配慮して、モノやサービスを購入することを言います。



／コープこうべの4つの視点／

私たちのお買い物で… **公正な社会**の仕組みが作り出せたら

社会インフラの改善や社会的公正の実現につながる

たとえば



フレンドリーバナナ

働く場を作り、収入の安定や子どもの教育機会を創出



生産者の生活が成り立つように公正な価格で商品原料などを継続的に買い取り



●トイレットペーパーのコアノンシリーズの購入金額の一部をユニセフに寄付し、アンゴラ共和国の子どもたちが安心して学べる学校の環境づくりを支援



私たちのお買い物で… **豊かな地域**を作り出せたら

地域の担い手や生産者の支援、被災地域復興などにつながる

たとえば



●地元の食材を利用することで、一次産業を元気に



コープの産直・ひょうご発・「とれびち&とれしゅき」



●商品の購入を通じた被災地支援も
商品一例
岩手県田老のふたけ塩わかめ



神戸ハイカラメロンパン募金
1個購入につき1円を被災地応援に



私たちのお買い物で… **地球環境**を守り続けることができたなら

持続可能な社会づくりにつながる

たとえば



●食べる人、作る人、作る環境に配慮した食べもの作り

●限られた資源を有効にリサイクル商品

●森や海の資源、生態系に配慮した原料で商品づくり

●商品価格の一部を寄付し、原料産地の環境を保全

太もずく・糸もずくサンゴの森づくりキャンペーン



FSC® 認証



MSC 認証 など

私たちのお買い物で… **人々の「生きる」を支えることができたなら**

くらしの問題の解決や生きづらさを抱える人々への支援につながる

たとえば



●コープこうべの夕食サポート「まいくる」1食あたり0.5円を、「(公財)コープともじびボランティア振興財団」に寄付しています



●コープ化粧品シリーズの対象商品1品購入ごとに1円を、日本乳がんピンクリボン運動へ



対象商品の一例
フリーリアシリーズ



コープ基礎シリーズ

2 コープこうべ環境基金

コープこうべの創立70周年を記念して1992年3月31日に設立。この基金は、まもなく30周年を迎えます。兵庫県内で自然活動保護の実践活動や啓発活動、取り組みの効果を確認する実証的調査・研究を行っている団体を毎年度、助成しています。



2018年度は「実践活動部門」の23団体と「自然環境保全に向けた実証的調査・研究部門」1団体に総額300万円を助成しました。



自然と文化の森協会
～春の自然林観察

3 生産と消費をつなぐ取り組み

とれぴち&とれしゃき

地元の野菜や魚を食べ支えることが、それらを作る(獲る)人、つまり一次産業を支え、育む自然環境を保全することにもつながります。「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれぴち)」「兵庫地場野菜振興プロジェクト(とれしゃき)」では、こうしたつながりについての体験・学習を、兵庫県漁業協同組合連合会、JA兵庫中央会などと連携してすすめています。2018年度は、店頭ミニ調理講習280回、料理会・学習会32回、産地体験14回を実施、合計11,236人が参加しました。

特にとれぴちについては、近年、地域密着のテーマで学びを深めることに力を入れています。東播磨地域を担当する地区では、淡路島の「かいぼり」を素材に、食べものと環境、そして生態系のつながりについての学びに着手しました。また、3月29日には、子どもたちに魚食に親しんでもらおうと、「鰯の手開きクッキング」を行い、小学生18人が参加しました。さらに、西播磨地域を担当する地区では、3月26日に坊勢漁協の漁業者と組合員が交流の場をもち、今後、いっしょに地元の魚の魅力を伝えていく活動へのキック



淡路島「かいぼり」の様子

オフを行いました。

一方、「とれしゃき」では、2018年12月、2019年3月に各2店舗で「兵庫フェア」を実施。ロメインレタス、菜の花など地元のJAが力を入れている野菜の食べ方を紹介しながら、兵庫の野菜についてアピールしました。



兵庫フェア

「兵庫の特産『丹波黒』を家族で育てよう」 in エコファーム

10家族40名の親子が参加し、大豆づくりの一連の流れを体験する5回連続のイベントを開催。植え付けから土寄せ、草ぬき、収穫作業に加えて、大豆を育てる農業用水をたどるミニ旅行も実施。最終回には味噌づくりも体験しました。



苗植え



みそづくり

4 里地・里山での体験学習を通じ、食べものや暮らし方を考える

コープの森・社家郷山

生物多様性保全に向けた取り組みと並行して、私たちの暮らし方が自然環境や地域の防災に及ぼす影響などについての体験学習を継続しています。

2018年度は、西宮市立甲山自然環境センターとの共催プログラム「遊ぼう屋」「エコひろば」を合計9回実施し、232人が参加しました。このほか、組合員主催のイベントは3回31人が参加。ボランティアによる保全・整備活動に18回、のべ157人が関わりました。



遊ぼう屋「水路ハイク」の様子

地域密着の里地・里山の体験、学習の広がり

各地区で、地域密着のテーマで「食と環境」を学ぶ取り組みが広がっています。

豊能町の「みんなの牧♥里プロジェクト」では、年々参加者が増え、2018年度は延べ1,173人の参加がありました。中でも子育て世代の参加が拡大し、収穫した野菜を使ったカレー作りや大根の植え付け～収穫までを自分たちでやりきる(大根チャレンジ)の取り組みなどが好評でリピーターも増えました。尼崎市の「尼崎21世紀の森」では、都市部に植樹することで、多様な生きものが生息するエリアを作り出しています。



大根チャレンジで大根を収穫